

1 さかたへの移住・定住に向けたトータルサポート事業（H28～30）

★酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略★

移住・定住に向けた総合的対策の推進

都市圏からの地方への移住ニーズの高まりを受け、移住希望者の仕事や住まいなどに関する情報をワンストップで提供できる相談体制を整備するとともに、酒田の魅力の発信や移住を後押しする支援制度の拡充に取り組みます。

元気な高齢者の移住促進

酒田で安心した老後を過ごしていただくための「生涯活躍のまち（日本版CCRC）」構想について、実現の可能性を検討します。

事業概要	事業内容・自己評価	実績を踏まえた今後の方針
○移住・定住に向けた総合的対策の推進（移住相談総合窓口の設置）	○移住相談総合窓口を設置、移住相談員を配置、関係機関等と連携し、きめ細やかに相談対応を行った。積極的なイベント出展も行き、相談受付数は大幅に増加し202件となった。 ○移住相談件数の大幅な伸びに伴って、本事業に関連した移住者数も増加している。 ○U I J ターン者の市内就職を促進するため「酒田市U I J ターン人材バンク」を設置、専任コーディネーターを配置して登録者へ市内求人情報をメール配信したほか、地元企業とのマッチング支援を行った。	○つながった相談者を確実に移住に結び付けることができるよう丁寧な相談対応を行っていく。 ○マッチング支援は堅調な成果をあげており、引き続き移住を検討する求職者と地元企業を丁寧につないでいく。
○移住・定住に向けた総合的対策の推進（酒田の魅力の発信）	○商業誌へのガイドブックの掲載、移住ポータルサイトの開設など、移住を切り口とした酒田市のPRに注力した結果、各種メディア媒体でも取り上げられた。 ○酒田市内の企業約70社が出展したイベント「さかた産業フェア」内におけるU I J ターンイベントの開催及びフェア開催に合わせ「さかた産業フェアツアー」を実施し、首都圏から15人の参加者があった。参加者のうち30代男性と40代女性の2名が酒田市へ移住を成し遂げている。	○引き続き本市の移住環境をPRしていく。 ○相談者のニーズを鑑みて、移住体験ツアーなど、常に移住者検討者と本市をつなぐ新しい仕掛けを模索していく。
○移住・定住に向けた総合的対策の推進（移住を後押しする支援体制の充実）	○前年度から運用を開始した移住お試し住宅は、夏シーズンは切れ目なく予約されるなど、利用者が大きく伸びた。 ○「人材バンク」における新規求人数は77人、新規求職者数は13人、新規メール配信登録者数は127人で、6人が企業からの内定を得、本市への移住へと結びついた。年度末時点で求人企業数は54社、求人数は198人、求職者数は8人、メール配信登録者数は196人（うち学生89人）となっている。 ○全国規模で開催される新規就農相談イベント（新・農業人フェア）に出展し、合計29件の相談を受けた。 ○空き家の利活用と移住定住の促進を目的に平成29年度に「空き家等情報サイト」を開設。延べ9件の契約につながった。	○本市移住への足掛かりとして、お試し住宅、人材バンクによるマッチング支援、就業情報の提供は相談者ニーズが高く機能しているため、引き続き実施していく。 ○空き家等情報サイトの物件数の拡大を図る。
○生涯活躍のまち構想の推進	○東京都武蔵野市にて荘内銀行と連携し、情報発信拠点東京吉祥寺テラスを運営。 ○酒田市の魅力発信と、移住相談の窓口として対応。酒田市からの移住等の情報発信を希望する登録者は平成30年度末時点で521名となった。 ○生活クラブ生協と連携し、生涯活躍のまち基本計画を策定した。組合員へは情報発信や高齢期の暮らし方の提案などを行い、事業への参加者数が延べ通算で1,000人を超えるなど関心層の取込みが出来てきている。	○東京吉祥寺テラスでの登録者数、事業への関心度は確実に増えている。 ○策定した基本計画をもとに更なる情報発信を行うとともに、事業の具体的推進を図り、移住者が増え、地域で活躍する仕組みづくりを推進していく。
○郷土愛の醸成による若年層の定住対策	○小中学校の総合学習の授業や道徳、読み聞かせなどで地域住民が先生として指導を行うことで、自分の住む地域の再認識の場となり、若年層の郷土に対する想いや意識の醸成につながっている。 ○就農啓発パンフレットを作成し、市内中学校・高校等に配布したことにより、就農について市内外にPRした。	○継続実施していく。

本事業における重要業績評価指標（KPI）							評価
指標	H28		H29		H30		
	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
指標①	移住者数（人）5年間で300人	30	39	40 (70)	32 (71)	60 (130)	45 (116)
指標②	移住総合相談窓口における相談件数（件）5年間で1,000件	150	105	160 (310)	132 (237)	170 (480)	202 (439)

※評価

- ・地方創生に非常に効果があった ⇒ すべての目標値を達成したなどの場合
- ・地方創生に相当程度効果があった ⇒ すべての目標値を達成することはなかったものの、目標値を相当程度（7割以上）達成したなどの場合
- ・地方創生に効果があった ⇒ 目標値を達成することはなかったものの、事業開始前よりも改善したなどの場合
- ・地方創生に効果がなかった ⇒ 実績値が本事業開始前の数値より悪化したなどの場合

事業費	全体事業費	推進交付金
H28	¥9,323,705	¥4,661,852
H29	¥29,363,794	¥14,681,897
H30	¥32,256,636	¥16,128,318

【外部有機者の評価・意見】

- 酒田の魅力発信
 - ・本市に移住した場合のメリットや住宅や空き家の情報、働く場の情報発信などの仕方を考えるべき。ターゲットは、首都圏のみならず、仙台圏や山形市近辺もあり得るのではないかと。
 - ・戦略的にターゲットを絞って「酒田市はこの年代でこんなサービスがある」というような発信ができないか。ライフステージに応じて、戻るきっかけ、情報を提供できるようになればよい。
 - ・移住者を増やすについては、パイの奪い合いとなっているのが現状。これという何かがないと周辺から酒田市に呼び込むのは難しいので、まずはファンを増やしていく方向で進めるしかないのでは。
- 移住を後押しする支援体制の充実
 - ・吉祥寺テラスがある武蔵野市において、市が主催するイベントが1～2か月の間で何度か実施されている現状がある。1つにまとめることによってコストカットにもなるし、インパクトのある発信ができるようになるのではないかと。
- 郷土愛の醸成による若年層の定住対策
 - ・小中学校での郷土愛を醸成する教育は重要。また、いかに地元企業の情報を知ってもらうか、やりがいや地域貢献性を含めどう伝えるべきか検討すべき。

2 酒田港を活かした「産業・交流都市さかた」実現プロジェクト（H28～30）

★酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略★

重要港湾である酒田港を活かした産業振興・創業支援の強化

酒田港が持つ様々な優位性を活かし、物流や人的交流をより活性化させるため、国内外向けの貨物量の拡大やクルーズ客船の誘致に取り組みます。地域産業に新たな活力を生み出す創業を促進するため、関係機関と連携した創業塾の開催や相談事業、創業時及び創業後の負担軽減等により新たな事業展開等に向けた取り組みを支援します。

農林水産物の海外輸出の促進

農業の持続的な発展を図るため、農林水産物の高付加価値化や海外輸出の取り組み支援を強化します。

事業概要	事業内容・自己評価	実績を踏まえた今後の方針
○酒田港を拠点とした農産物輸出拡大に向けた取組み（プロモーション）の推進	○ロシア（サンクトペテルブルク）での啓翁桜のプロモーション活動を行い、一足早い春を告げる花として高い評価をもらっている。 ○物流企業とのつながりが生まれ、輸送ルートの確立に向け着実に進んでいる。 ○東南アジアでの輸出量も順調に伸びており、輸出拡大に向けて今後も期待ができる。 ○啓翁桜の輸出は、国内価格が低下する2～3月に限定することにより、販売額の向上につながっている。	○今後も、テスト輸送や、継続して海外でのプロモーション活動を実施し、米や他の農産物についても関係機関に働きかけを行い、生産の拡大と販売額向上を図る。
○酒田港を拠点とした農産物輸出拡大に向けた取組み（新たな特産品開発）の推進	○庄内バイオ研修センターでは、新たな育種開発には至らなかったが、酒田市種苗供給推進協議会と連携しネギ、いちご、ダリア等の園芸作物の安定した種苗供給を実施した。 ○啓翁桜の栽培を始める農家に対し園芸特産化支援センターが指導を行い、啓翁桜の産地形成の拡大が図られた。	○園芸特産化支援センターの営農指導については、より専門的なJAや県の営農指導を活用し産地形成を図るべきとし、29年度に廃止。 ○庄内バイオ研修センターについては、啓翁桜、ねぎ、ミニトマトなどの苗を供給し産地化につなげてきたが、専門的な人材不足により、今後開発・供給は専門機関に委ねるとし、30年度で廃止。
○新たなビジネスチャンスの創出を図るため、中小企業・新規創業相談にワンストップで対応する体制の構築	○H30年4月に「酒田市産業振興まちづくりセンター（サンロク）」が開設され、創業に係る情報提供、相談対応等総合的な支援を実施し、創業を促進している。 ○商工会議所における創業塾の開催や開業支援補助金を実施したことにより、創業件数は目標値を上回った。	○創業希望者に対する細かなフォローアップと助成制度の充実により、目標値を上回る創業件数としており、引き続き関係機関と連携しながら創業を促進する。 ○推進交付金実施計画「酒田市産業振興まちづくりセンター（サンロク）整備運営事業」で事業を継続実施中。
○産学官連携ワーキングスペースを活用した起業家の育成及び異業種間交流による新規プロジェクトの創出	○運営業務を東北公益文科大学に委託し、その利活用を通じて、創業・起業を促進するための利用者間の交流機会を創出した。会員による新規創業件数は3件となり、創業・起業に結び付いた。	○サンロク開設により、産学官連携ワーキングスペースは30年度で廃止。
○酒田港での人的交流をより活性化させ、国内外の新たな需要を拡大するためのクルーズ船の誘致	○酒田港へのクルーズ船寄港は、29年度6回（うち外国船1回初寄港）、30年は初寄港のダイヤモンド・プリンセスを含む5回（うち外国船3回）となった。入念な受入の準備を行ったことから、寄港後の乗客からは高い評価を得るなど、良好な結果を出せた。	○酒田港へのクルーズ船寄港は、2019年は8回（外国船5回、日本船3回）を予定し、着実に回数を増加させている。引き続きクルーズ船社に対して、酒田港と寄港地の魅力発信に努めていく。

本事業における重要業績評価指標（KPI）								評価
指標	H28		H29		H30			
	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値		
指標①	酒田港コンテナ貨物取扱量（TEU） 13,799 T E U/年（H26）	23,000	23,658	27,000	28,365	31,000	25,321	地方創生に相当程度効果があった
指標②	農産物輸出货量（花き・花木）（本） 900本（H26）	3,700	7,490	5,100	20,970	6,500	22,030	
指標②	農産物輸出货量（米果実等）（t） 60 t（H26）	64	64	66	25	68	109	
指標③	創業件数（件） 31件（H27）	20	31	20 (40)	45 (76)	20 (60)	33 (109)	

事業費	全体事業費	推進交付金
H28	¥23,509,374	¥11,754,687
H29	¥27,439,716	¥13,719,858
H30	¥27,698,718	¥13,849,359

【外部有識者の評価・意見】
○酒田港を利用した農産物輸出輸出拡大 ・航路のある仕向け地企業とのマッチングの検討をしてはどうか。 ・庄内柿を酒田港から香港に輸出する取組みを新たに進めている。
○起業家の育成及び異業種間交流による新規プロジェクトの創出 ・地方だから賃金が安いのが当たり前との先入観が強いが、車、携帯代等、首都圏と同じである。では、賃金が高い仕事をどうやって創出するのだが、これまでの産業は、地場での事業展開が主だったが、インターネット環境が整った現在、若い世代は、地域外や海外の情報にアクセスすることができ、外に向けた事業展開が可能となっている。まち全体を挙げて企業支援、チャレンジする人を増やしていく必要があるものとする。単純にお店をやってみようというのではなく、アイデアを形にする教育が必要。

3 酒田発ヘルスケアビジネス創出プロジェクト（H29～R1）

★酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略★

健康で生きがいのある生活の推進

中町にぎわい健康プラザを健康づくりの拠点として確立させ、市民の運動習慣と食習慣の改善による健康寿命の延伸を図ります。

中心市街地や商店街の賑わい創出

酒田市中心市街地活性化基本計画に基づき、本市の歴史・文化・景観及び食べ物など豊富な資源を活かせる街づくりを進め、市民同士あるいは市民と観光客との様々な交流を創出し、市民の活発なコミュニティ活動を促します。

事業概要	事業内容・自己評価	実績を踏まえた今後の方針
<p>○タニタグループと連携し、中町にぎわい健康プラザ内の健康増進スペースに、健康状態が測定できる健康測定機器を設置する。</p> <p>○参加者は活動量計を用い、自身の健康状態や運動量をデータとして把握・管理することができる環境づくりを行い、健康状態の見える化を図る。</p> <p>○参加者 1 人ひとりの目標や目的意識に合わせて、保健指導や栄養講座、健康セミナーなどを組み合わせた新たな健康づくりプログラムを構築する。</p> <p>○プログラムには、湊町酒田の歴史・文化・生活をコンパクトに体験できる街あるき観光を組み入れ、市内への回遊性を高める。</p> <p>○参加者には、計測回数や運動量、また地域活動への参加などに応じて健康ポイントを付与し、累積ポイントに応じて市内協賛店で商品等を割引購入・交換できる仕組みをつくる。</p> <p>○市内の各所に健康拠点を広げていき、地域の活動・交流の拠点とする。</p>	<p>○健康寿命の延伸とヘルスケアビジネスの拠点となる施設を整備し、健康状態や運動量をデータとして把握・管理することができる環境づくりを行った。</p> <p>○健康状態の見える化を図り、一人ひとりの目標や目的意識に合わせて保健指導や栄養講座、健康セミナー、歩数イベント等を組み合わせた新たな健康づくりのプログラムを構築した。</p> <p>○健康ポイント制度を導入し、健康づくりのインセンティブを高めるとともに、民間事業者等と連携し、商店街等に足を運んでもらう仕組みを構築した。</p>	<p>○健康づくりの拠点を増やし、健康プログラムの提供により運動習慣、食習慣の改善に取り組む市民を増やしていく。</p> <p>○タニタヘルスリンク等と連携した酒田産食材を活かした健康メニューの提供、湊町酒田の魅力を体験できる街あるき観光・地域活動等を組み合わせ、ヘルスケアビジネスの創出を図る。</p>

本事業における重要業績評価指標（KPI）								評価
指標	H29		H30		H31			
	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値		
指標①	中町にぎわい健康プラザ収入（千円）	9,000	11,406	9,900	11,111	11,900		地方創生に相当程度効果があった
指標②	20～64歳の定期的な運動習慣者の割合（％）	32.0	34.4	35.0	37.3	38.0		
指標②	中心市街地の主要観光施設入込数（千人）	1,606	1,457	1,618	1,464	1,636		

※評価

- ・地方創生に非常に効果があった ⇒ すべての目標値を達成したなどの場合
- ・地方創生に相当程度効果があった ⇒ すべての目標値を達成することはなかったものの、目標値を相当程度（7割以上）達成したなどの場合
- ・地方創生に効果があった ⇒ 目標値を達成することはなかったものの、事業開始前よりも改善したなどの場合
- ・地方創生に効果がなかった ⇒ 実績値が本事業開始前の数値より悪化したなどの場合

事業費	全体事業費	推進交付金
H29	¥15,849,773	¥7,924,886
H30	¥11,939,954	¥5,969,977

【外部有識者の評価・意見】

- ・中町にぎわい健康プラザの利用促進について、「プラザの利用促進」と「健康」は本当に相関関係にあるのか。研究機関を入れた調査を行ってはどうか。
- ・タニタとの連携事業についての周知不足を感じる。また、健康づくりプログラム自体、楽しさ、おもしろみというインセンティブ不足を感じる。

4 酒田市産業振興まちづくりセンター（サンロク）整備・運営事業（H29～R3）

★酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略★

地元企業の事業拡張の促進

企業の自立的な事業展開が促進されるよう、新製品・新技術の開発、販路拡大等にむけた支援を行います。

創業支援の強化

地域産業に新たな活力を生み出す創業を促進するため、関係機関と連携した創業塾の開催や相談事業、創業時及び創業後の負担軽減等により新たな事業展開等に向けた取り組みを支援します。

事業概要	事業内容・自己評価	実績を踏まえた今後の方針
<p>○人と人、企業と企業、人と企業を「つなぐ」ことがメインコンセプトの酒田市産業振興まちづくりセンター（サンロク）を設立し、次のサービスを実施</p> <p>① 地域（特に若者、女性、シニア）、企業等のニーズとシーズ（能力、スキル、経験等）のマッチングによる民衆の契約成立の仲介</p> <p>② 企業のリソースを活用した企業同士のリソースの補完（副業の促進）のマッチング</p> <p>③ 行政・産業支援機関・金融機関等の連携による企業ニーズのワンストップでの解決</p> <p>④ マッチング等により成立したビジネス等の成果の国内外への発信</p>	<p>○サービスの実施のために、次の事業を実施</p> <p>①個人・企業のニーズ・シーズやマッチング案件についてのデータベース等の構築</p> <p>②マッチングコンサルジュや専門家による相談体制の整備</p> <p>③シェアオフィススペース、コワーキングスペース、チャレンジキッチンの整備</p> <p>④子育て中の女性が安心してコワーキングスペースで作業できるよう保育サービスの提供、保育スペースの整備</p> <p>⑤成果を効果的かつわかりやすく発信するための情報発信</p> <p>⑥「農業水産業分野」つなぐプロジェクト支援制度の整備</p> <p>○酒田市産業振興まちづくりセンターを設置し、創業支援を含むプロジェクト組成に取り組んだ。</p> <p>○創業実績及び企業、専門家等とのマッチングによるビジネスプロジェクトの契約金額（売上金額）は、目標以上の成果を残した。</p> <p>○センターのマッチングにより創出されるビジネスプロジェクトの件数は、目標を下回る結果となった。</p>	<p>○平成30年度に開設した産業振興まちづくりセンターでは、市内金融機関や関係機関と連携した産業振興や農工商連携等のプロジェクト組成に取り組んだ。</p> <p>○プロジェクト組成は、企業訪問や企業からの相談、セミナーなどをきっかけとして進めた。</p> <p>○件数について目標未達であることを踏まえ、企業ヒアリングの頻度の増加、企業の経営に直接生かしやすいセミナーの企画、コワーキングスペースの企業会員制度の導入などを進め、本センターへの求心力を高めながら、プロジェクト組成数増加に努める。</p>

本事業における重要業績評価指標（KPI）								評価
指標	H29		H30		H31			
	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値		
指標①	センターのマッチングにより創出されるビジネスプロジェクトの契約金額 H33までに138,720千円	1,020	27,788	34,425 (35,445)	45,968 (73,756)	34,425 (69,870)		地方創生に相当程度効果があった
指標②	センターのマッチングにより創出されるビジネスプロジェクトの件数「H33までに544件」	4	4	135 (139)	87 (91)	135 (274)		
指標③	センターの支援により創業した件数「H33までに140件」	20	45	30 (50)	33 (78)	30 (80)		

本事業における重要業績評価指標（KPI）					
指標	R2		R3		
	目標値	実績値	目標値	実績値	
指標①	センターのマッチングにより創出されるビジネスプロジェクトの契約金額 H33までに138,720千円	34,425 (104,295)		34,425 (138,720)	
指標②	センターのマッチングにより創出されるビジネスプロジェクトの件数「H33までに544件」	135 (409)		135 (544)	
指標③	センターの支援により創業した件数「H33までに140件」	30 (110)		30 (140)	

※評価

- ・地方創生に非常に効果があった ⇒ すべての目標値を達成したなどの場合
- ・地方創生に相当程度効果があった ⇒ すべての目標値を達成することはなかったものの、目標値を相当程度（7割以上）達成したなどの場合
- ・地方創生に効果があった ⇒ 目標値を達成することはなかったものの、事業開始前よりも改善したなどの場合
- ・地方創生に効果がなかった ⇒ 実績値が本事業開始前の数値より悪化したなどの場合

事業費	全体事業費	推進交付金
H29	¥3,085,501	¥1,542,750
H30	¥54,292,624	¥27,146,312

【外部有識者の評価・意見】

- ・創業支援については、若い世代の方々を含め、力を入れていべき。また、創業して終わりではなく、創業後、専門家からの助言等を受けられるようにすべき。伴走型の支援が重要である。
- ・創業、起業の支援について自らその経験がない人は、支援やアドバイスができないと思う。銀行から借入れをさせるだけさせて、創業したら後はおしまいと仕事の範囲を区切るのではなく、見捨てずに民間と組んで伴走することが大切だと思う。
- ・サンロクでは創業後の相談が増えている。創業後、軌道に乗るまでの支援は大事なことであるが、創業した以上自助努力でやるべきところも大きい。一般に新規企業が1年後に残る割合は40%、5年後は数パーセントといわれていることから、150社の起業があっても数社しか残らない。もっと目標数値は大きくすべきでないのか。何かにチャレンジする機運を高めるための施策が必要。
- ・フリーランスと企業とのマッチング支援等があるとよい。
- ・サンロクではテレワーカーの推進についても取り組んでいるが、受け入れる企業がないことが課題。仕事の切り分けが難しく、テレワーカー育成と同時に、受け入れ企業の開拓も一緒に進めるべき。

5 【県連携】酒田港の魅力を生かした賑わい向上事業（H30～R2）

★酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略★

重要港湾である酒田港を活かした産業振興

酒田港が持つ様々な優位性を活かし、物流や人的交流をより活性化させるため、国内外向けの貨物量の拡大やクルーズ客船の誘致に取り組みます。

事業概要	事業内容・自己評価	実績を踏まえた今後の方針
<p>○酒田港外港クルーズ船おもてなしスタイル構築事業（山形県） 外航クルーズ船から「酒田港」を寄港地として選択・定着してもらうため、外航クルーズ船機構の際に、県内多様な農林水産物等の県産品ブース出展や県内祭り等のPRを展開し、おもてなしスタイルを構築する。</p> <p>○北前船の寄港地酒田港の魅力発信事業（酒田市） 酒田港の魅力を発信・定着させていくために、酒田港の歴史・文化などの魅力を活用したイベントを実施する。</p> <p>○みなとオアシス酒田新規誘客施設基盤整備事業（山形県） 「みなとオアシス酒田」において、既存港湾施設（倉庫）を利用展開し、酒田祭りの山車の展示場や、飲食店等が出店するテーマ型フードコートなど新たな観光施設を整備する。</p>	<p>○KPIに設定した「みなとオアシス酒田の主要4施設の総入込客数」は、目標値を下回った。新たな観光拠点整備を進めることで、需要を掘り起こし、入込客数の増加に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>○観光拠点の整備を計画的に進めるとともに、既存施設についても、誘客イベント等の開催により新たな取り組みを実施することで、入込客数の増大につなげていく。</p>

本事業における重要業績評価指標（KPI）									評価
指標		H28	H30		H31		H32		
		実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
指標①	みなとオアシス酒田の主要4施設の総入込客数（人）	629,844	664,896	588,400	699,948		735,000		地方創生に効果がなかった

※評価

- ・地方創生に非常に効果があった ⇒ すべての目標値を達成したなどの場合
- ・地方創生に相当程度効果があった ⇒ すべての目標値を達成することはなかったものの、目標値を相当程度（7割以上）達成したなどの場合
- ・地方創生に効果があった ⇒ 目標値を達成することはなかったものの、事業開始前よりも改善したなどの場合
- ・地方創生に効果がなかった ⇒ 実績値が本事業開始前の数値より悪化したなどの場合

事業費	全体事業費	推進交付金
H30	¥7,600,000	¥3,800,000

【外部有識者の評価・意見】

・酒田市に転勤してきた方々とかかわることが多いが、人柄、食べ物、自然等、口々に酒田はいいところだという。そこは自信をもって良いのだと思うが、せっかく港があるのに、その近くに親子で遊ぶ場、楽しめる場がないのはもったいないという声もよく聞く。

・クルーズ船の酒田港の評価とこの事業評価にギャップを感じる。埠頭や中町での賑わいや交流をみると、必ずしも効果がないとは考えにくい。

6 【県連携】官民協働・地域間連携による住民主体の地域づくり推進事業（H29～R2）

★酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略★

小さな拠点とネットワークの形成

特に人口減少が著しい中山間地域等において、商店、診療所など日常生活に不可欠な施設の在り方、周辺集落との連携の仕方など持続可能な地域づくりを推進するため、それぞれの地域における課題認識の共有化や、これからの地域の在り方について検討を進めます。

地域コミュニティ活動の確保

地域が育んできた力を活かし、地域に合った取り組みを地域コミュニティ自らが自由に選択し実行できる仕組みづくりとして「ひとづくり、まちづくり交付金」を創設し、地域活力の維持、賑わい創出、元氣創造を図ります。

事業概要	事業内容・自己評価	実績を踏まえた今後の方針
<p>○大沢地区（八幡）、南部地区（松山）、田沢地区（平田）をモデル地区とし、山形県・酒田市・中間支援団体が連携し、地域住民主体の地域づくりを支援する。</p>	<p>○大沢地区 地域住民の話し合いを基本に地域課題の洗い出しを行い、解決方法を「地域づくり計画」として策定し、組織再編を行った。</p> <p>○南部地区 地域住民の話し合いを基本に地域課題の洗い出しを行い、将来に向けての地域ビジョンを作成した。</p> <p>○田沢地区 住民参加によるワークショップ等を開催し、コミュニティ振興会の組織や行事等の見直しを図るとともに、実施計画を策定した。</p> <p>○飛島 とびしま未来協議会として、山形県と連携した飛島振興プロジェクトに参画し、島民や飛島関係者の思いや意見を引き出すことに努めた。新に飛島に必要な施設や機能について、方向性をまとめた。</p>	<p>○大沢地区 地域づくり計画の実行。より発展的な活動へつなげ、地域課題の解決の実現と他地域への波及効果を狙う。</p> <p>○南部地区 地域ビジョンに基づき、部会ごとの実施計画を策定し、住民主体の地域づくりを推進していく。</p> <p>○田沢地区 策定した実施計画の実行。住民主体の組織形成を推進していく。</p> <p>○飛島 プロジェクトに引き続き参画し、島民・NPO主体の島づくりを進める。</p>

本事業における重要業績評価指標（KPI）									評価	
指標		H29		H30		H31		H32		
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値		実績値
指標①	中間プラットフォームによる住民主体の地域活動拠点形成	5	3	1 (6)	1 (4)	1 (7)		2 (9)	地方創生に効果があった	

※評価

- ・地方創生に非常に効果があった ⇒ すべての目標値を達成したなどの場合
- ・地方創生に相当程度効果があった ⇒ すべての目標値を達成することはなかったものの、目標値を相当程度（7割以上）達成したなどの場合
- ・地方創生に効果があった ⇒ 目標値を達成することはなかったものの、事業開始前よりも改善したなどの場合
- ・地方創生に効果がなかった ⇒ 実績値が本事業開始前の数値より悪化したなどの場合

事業費	全体事業費	推進交付金
H29	¥9,684,259	¥4,842,129
H30	¥11,165,699	¥5,582,849

【外部有識者の評価・意見】

・中山間地域の維持については、今後厳しさが増すことが予想されるが、魅力ある地域を残すことが市の力になる。

・遊休施設の使用については規制緩和が必要と考える。